

事業事業評価

平成 31 年度

		担当課		しまばら観光おもてなし課				
基本事項	事業事業名	浜の川湧水「銀水」賑わい創出事業				整理番号	1506	
	根拠法令等	島原市鯉の泳ぐまち及び浜の川湧水観光交流施設条例				実施を義務付ける規定	◎あり ○なし	
	関連する市勢振興計画の基本計画	章 第 5 章 「農漁商観」が融合した活力ある産業をつくる	予算科目	7 款 1 項 3 目	◎継続 ○新規			
		節 第 4 節 観光業の振興	事業区分	施設管理・運営				
事業の目的・実施状況等	事業の背景 (課題、市民の要望等)	島原市特有の観光資源である湧水を感じるスポットとして、浜の川湧水に隣接する「銀水」を復活させ、地域住民と観光客の交流の場として活用する。				計画期間	始期 平成 28 年度から 終期 平成 年度まで	
	事業の対象 (誰に・何に対して) 目的 (どのような状態にしたいのか)	島原特有の観光資源である「湧水」を活用した観光スポットとしてPRするとともに、島原城や鯉の泳ぐまち等と併せ周遊型観光の充実、滞在時間の延長を図る。						
	目的達成のための 具体的手段・方法	地域住民や観光客が参加・交流できるイベント等を開催するほか、マスメディアへの情報提供・取材協力やSNS等により情報を発信し集客を図る。						
	成果指標 (目的達成度を図るものさし)	名 称 等 (内 容)		単位	29 年度	30 年度	31 年度	
		①銀水への来場者(観光客)数	目標	人	18,000	20,000	23,000	
			実績	人	18,414	22,790		
			達成率	%	102.3	114.0	0.0	
		②島原市への入込客数 ※観光統計によるため暦年(1～12月)の人数	目標	人	1,370,000	1,380,000	1,387,000	
			実績	人	1,370,121	1,382,263		
	達成率		%	100.0	100.2	0.0		
活動指標 (目的達成のために 行った活動実績)	①イベントの開催	目標	回	3	3	3		
		実績	回	4	3			
	②マスメディア・SNS等での情報発信	目標	回	20	20	20		
		実績	回	77	21			
事業費等の推移	年度		27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度	2 年度
	区分		実績値	実績値	実績値	実績値	予 算	計 画
	① 直接事業費(千円)		-	5,088	8,495	9,141	8,750	13,000
	財源内訳	国 県 支 出 金	-					
		地 方 債	-					
		そ の 他	-	5,605	7,314	9,137	8,750	13000
		一 般 財 源	#VALUE!	-517	1,181	4	0	0
	②従事職員給与費 b1×b2		0	1,572	1,585	1,609	1,581	1,581
	従事職員数(人) b1		0.00	0.21	0.21	0.21	0.21	0.21
	職員平均人件費 b2		7,438	7,484	7,546	7,663	7,530	7,530
	事業費合計 ① + ②		#VALUE!	6,660	10,080	10,750	10,331	14,581

【1次評価】

事務事業の評価項目と評価の視点		評価内容（判断理由、課題等）	
必要性	①社会環境の変化や市民ニーズに照らして、事業の必要性が薄れていないか	A=薄れていない B=一部薄れている C=薄れている 体験型観光のニーズが高まる中、島原特有の資源である「湧水」を身近に感じる施設として、観光客は増加傾向にある。	判定 A
	②事業を民間（NPO、市民、ボランティア等）に実施させることはできないか	A=市以外での実施は困難 B=一部民間での実施可能 C=民間での実施可能 指定管理者制度を見据えているが、地元住民は市の運営を望む意見があるため、当分の間、市が直接運営する。	C
	③対象者は事業目的に見合っているか。また、事業を取り巻く時代変化や制度改正など、環境の変化に適応しているか	A=概ね適切 B=改善の余地あり C=見直しが必要 銀水（浜の川湧水）を訪れる観光客は増加傾向にあり、観光客の増加に寄与している。	A
有効性	④成果指標の達成に十分寄与する手法がとられており、結果として目的が達成されているか （成果指標と連動させること A=達成 B=概ね達成 C=未達成）	A=達成している B=一部達成している C=あまり達成していない 銀水のPRに努めており、来場者は増加傾向にある。	A
	⑤事業効果をさらにあげる余地はないか	A=効果向上の余地はない B=一部検討の余地がある C=検討の余地がある 時期によって来場者が減少することもあることから、体験事業等を実施することにより、年間を通して賑わいがあるよう工夫する必要がある。	B
効率性	⑥事業実施により、費用や業務量に見合った活動結果が得られているか （活動指標と連動させる A=達成 B=一部未達成 C=未達成）	A=得られている B=一部得られている C=見直しが必要 銀水の管理運営費については、運営収入により賄うこととしており、概ね達成している。	A
	⑦必要な活動結果がより少ない費用や業務量で得られる手法に代えられないか	A=現行以上の手法はない B=一部検討の余地がある C=検討の余地がある 指定管理者制度の導入が考えられる	C
	⑧組織間の連携や役割分担に改善の余地はないか	A=改善の余地はない B=一部改善の余地がある C=改善の余地がある 観光施設の管理運営であることから、他課との連携はなし。	A
公平性	⑨事業の対象者全員に偏りなくサービスが提供されているか 全体コストから見て受益者の負担割合は適切か 使用料等の見直しの余地はないか	A=概ね適切 B=検討・改善の余地あり C=見直しが必要 施設の管理運営に必要な経費は来場者の負担により賄われている。	A
	⑩市民参加、市民協働が配慮されているか、市民参加を拡大する余地や、新たに取り組む余地がないか	A=概ね適切・現状維持 B=検討・改善の余地あり C=見直しが必要	A
判定採点平均（3点満点） A=3、B=2、C=1、「-」=0として換算			2.50

◎ 総合自己評価（所管部署）	
評価結果	◎ A 継続実施（特段の見直しは行わない） ○ B 改善・見直しを行う ○ B1 事業規模の拡充 ○ B2 事業規模の縮小 ○ B3 事業内容の改善・見直し ○ B4 その他の見直し ○ C 休止（隔年実施などへの変更） ○ D 廃止（終期の設定等を含む）
判断理由	平成28年8月のオープン以来、来場者は増加傾向にある。特に、SNS等を活用した情報発信（口コミ）や、平成30年度はNHK長崎地域発ドラマのロケ地として全国に発信した効果があがっている。また、地域住民からの協力も得られており、来場者の評価も得ている。
今後の課題及び改善策、見直しの状況	（実施上の課題等） 指定管理者制度による管理運営の委託が考えられるが、地元住民の生活に密着した地域であることから、十分に配慮した検討が必要である。
・総合評価で、「見直し・改善」を行うとした場合、見直しを行う上での今後の課題や事務事業の改善・見直しを行うことにより予想される効果も併せて記載してください。 ・本年度の事業を実施するにあたり、事業内容等の見直し（改革・改善、終期の設定など）を行っている場合は、その内容についても記載してください。	

【2次評価】

総合判定	B3見直しのうえで実施 → 事業内容の改善
備考	オープン以来、テレビ放映等もあり来場者は増加傾向にある。今後は、島原城や清流亭など一体となった周遊型観光の拠点施設として指定管理制度の導入が効果的と考えられるため、地域住民に配慮しながら導入に向けた検討をお願いしたい。

【3次評価】

総合判定	A 継続実施（特段の見直しは行わない）
備考	地域住民に配慮しながら、指定管理者制度の導入に向けて、引き続き検討が必要。

評価結果を踏まえた次年度予算への反映状況		
① ☐ 事業費縮減（事業の見直し）	③ ☒ 成果向上に向けた事業費増加	↓ 予算措置額の増減
② ☐ 民間委託等によるコストの縮減	④ ☐ 事務の効率化による現状維持（事業内容の拡充）	4,250（千円）